

広報

あいづばんげ

4

2012 No.572

CONTENTS ~今月の内容~

表紙「坂下第二中学校卒業式」

2 坂下一中・二中最後の卒業式

4 東日本大震災あれから1年

6 3か月連続特集「人の駅・川の駅・道の駅」

8 合併浄化槽への転換をお願いします

10 資源分別にご協力ください

12 農地賃借料と農作業賃金

14 介護保険料が変わります

15 食品中の放射性物質の基準値が変わります

16 町史編さんだより

17 食育だより

18 図書室だより

19 ばんげ保育所に遊びにおいてよ

20 まちの話題

22 お知らせ版インフォメーション

30 健康づくり・すこやか

31 4月の保健ガイド・戸籍の窓口 外

32 塔寺立木観音(木造千手観音立像)を修復

一つの歴史に幕を閉じる



最後の卒業証書授与式を迎えて

3月13日(火)、坂下一中として最後となる、第54回卒業証書授与式並びに閉校式が執り行われました。「真っ直ぐにすくすくと育ててほしい」という願いを教育理念に掲げ、その象徴である



坂下一中
最後の校長
佐藤孝信先生

「桐」は校歌の歌詞や校章のデザインにも取り入れられていますが、教職員は54年間の長きにわたり、毎年一丸となって日々の教育活動にあたってきました。

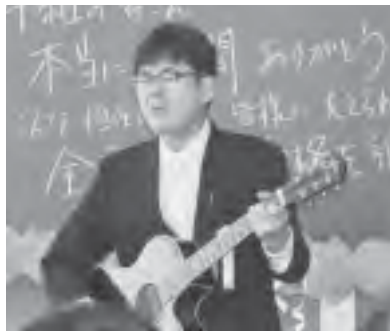
両沼地区の中心校として、学習や諸活動の中核を担ってきたことは多くの方々の知るところですが、中でも新体操部や合唱部の全国大会での活躍は、生徒たちに「一中生としての誇り」を育むまたとない機会であり大きな成果となりました。

そんな一中も、54年の歴史に幕を降ろすこととなります。寂しさを覚えますが、新しい坂下中学校への期待は大きく膨らみます。「知的好奇心にあふれ、郷土を愛する、たくましい若者を育てることを教育理念とし、起こるであろう課題には、生徒・教師・保護者・地域の人々が一丸となってその解決に向けて努力すること」、それが新しい文化や伝統を生み、すばらしい中学校へとなるはずです。それを心から願っています。

ところで、最後の卒業式では、卒業生にアメリカの詩人の言葉を贈りました。

「寒さに震えた者ほど 太陽の暖かみを感じる 人生の悩みをくぐった者ほど 生命の尊さを知る」これから経験するであろう多くの困難や苦しみを一つ一つ乗り越えてほしい、人の心の温かさを知ってほしいとの願いからです。無限の可能性を持った子どもたちですから、きっと大丈夫です。

最後になりますが、これまで本校を陰に陽に支えてくださいました関係各位、保護者の皆様、地域の方々に心より感謝申し上げます。



3月13日(火)、雪が降る中、坂下一中・二中最後の卒業式が執り行われました。

式では、卒業証書を渡す時に校長が一人一人に笑顔で「がんばれ！おめでとう」と声をかけ、生徒もそれにながら泣きながら心をつたえられました。

校歌などを歌うと、思わず泣き出してしまふ子もいて、写真を撮りながらもらい泣きしそうでした。

閉校式では、校旗に感謝を込めて町に返納されました。

式が終わると最後の学活。担任の先生も泣きながら最後の言葉、歌を贈った先生も(;)を贈りました。

見送り式では、雪もやみ外はうそのような快晴。部活などでお世話になった先生、後輩、同級生に声をかけながら、一中・二中を卒業しました。

坂下一中では54年間10,071人。坂下二中では、51年間8,130人の卒業生を送り出しました。

坂下中の伝説の人となれ



坂下二中
最後の校長
酒井 完先生

昨年の卒業式に発生した東日本大震災から1年が過ぎました。この大混乱の中、不安定な学習環境の中でも学びを怠らず、伝統ある坂下二中の最後の卒業生として卒業証書を授与しました97名の皆さん卒業おめでとう。

坂下二中の卒業生はあなたたちが最後です。皆さんのこれからのがんばり、生き方が坂下二中・坂下中の新しい伝統になるのです。私は、皆さんに坂下二中・坂下中の伝説の人となってほしい。と願います。

たとえば、野球部やサッカー部の誰かが2、3年後に甲子園や高校サッカーで大活躍をすれば、同級生や後輩、家族の人が「あいつはおれの同級生だ」「私の娘の同級生だ」と応援します。そして、プロ野球また、Jリーグで活躍するたびに後輩たちの話題にのぼります。そして、その人は未来の坂下中の生徒にとって「伝説の人」となるのです。

スポーツだけではなく。難病で苦しむ人の悲しみと寄り添う看護師、火災現場で住民の命を救う消防士、旬の食材にかかわる料理人、おいしい米や野菜、果実の栽培に命をかける農家、皆さんは「伝説の人」となるチャンスに溢れています。坂下中の伝説の人となれ。それは表現を変えると、あなたの才能を生かして、あなたの周囲の人たちを幸せにしてください。ということです。そのためには、自分の才能を磨くためにこれからも弛まぬ努力が必要です。さらに、これから何度も訪れる挫折を乗り越える強い精神力が必要です。また、自分だけの幸せを願う邪悪な心とも戦い続けなければなりません。

そう、今日から夢に向かって努力する人全員が「坂下二中・坂下中の伝説の人なのです」。

思い出はいつまでも



東日本大震災あれから1年

桜木町



勝方・樋渡線



助け合い・支え合い

東日本大震災から一年間が経過しました。あの時の記憶は、つい昨日のことにように蘇ってきます。

そして、福島県においては、東京電力福島第一原子力発電所において、想像もできなかった水素爆発が次々に発生し、原発周辺の市町村の方々は避難を余儀なくされ、当町へも葛尾村の方をはじめ、多くの方が避難をされて来られました。町民の皆様方には、物資の提供やボランティア活動等多くのご支援・ご協力を頂き心より感謝と御礼を申し上げる次第であります。避難をされた方々からは、「会津坂下町には大変お世話になりました」との感謝の言葉が多く寄せられております。改めて心より敬意と御礼を申し上げます。

この大震災によって私たちは多くのことを気づかされました。家族、人とのつながりの大切さ、命の大切さ、支え合うことの大切さ。そして、人間は、自然のおおいる力には無力であるということ。

未曾有の大震災から一年の節目を迎え、私たちは、さらに防災の

意識を高めていかなければなりません。町も災害への対応力を向上させるため、想定していなかった原子力災害等も加え、関係機関と連絡を密にしてその対策に努め、今後も独自の放射線測定や除染活動を行ってまいります。

また、この四月より、「放射能対策室」を設置いたしました。更なる町民の安全・安心の確保をしてまいります。

この一年、福島県は苦悩の一年となり、未だ、放射能問題、風評被害、長期避難生活など傷痕は深く、復興への道のりは平坦ではありません。しかし、私たちは、この震災を風化させることなく、助け合い、支え合いながら、復興を進めていかなければなりません。

町といたしましても、原子力に依存しない、安全・安心な誇りあるふるさととの再生を目指し、当町では、必要なのは、「絆 結いの精神」であると考え、地域住民の連携を強化し、まちづくりを活かして行きたいと考えておりますので、町民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

会津坂下町長 竹内晁俊

あの日から1年後の平成24年3月11日(日)。各地で様々なイベントが行われました。役場前では、消防団第1分団が午後2時46分に黙とうをし、町内を巡回。川西公民館では葛尾村民を招き「絆」交流会が開催されました。



↑上の写真は黙とうを終え町内の巡回に向かう団員達
→右の写真は黙とうをす
る第1分団の団員



↑長井のそばが振る舞われた

←ビートマックススペシャルとダンススタジオHIROのメンバーが「葛尾川」を熱唱

→「葛尾川」を聴き故郷を思い出し感動している葛尾村民



常に危機管理意識を持つ



震災当時避難所の設営責任者だった
安藤信之部長
(生活部長)

当時は行政経営班長

平成23年3月14日(月)葛尾村から村民約300名の避難受け入れ要請があり、当町で受け入れを決定、避難所を川西公民館体育館等に決定し準備態勢に入りました。

翌15日(火)に総務部長の指示を受け設営に入り、各部からの協力職員を班分けし、関係備品等の搬入を開始する一方、公民館長等に避難者受け入れの了承と協力を快諾いただき打ち合わせを行いました。

県の対策本部からは葛尾村民はスクリーニングを受けた後、午後5時到着予定との連絡があり、天候(当時雪が降っていた)等を考慮して午後2時に設営完了する旨、職員並びに協力者に伝達、一方建設部では駐車スペース確保のために川西公民館グラウンドを除雪、さらに教育部では炊き出しを行うため新給食センターを稼働させる準備に入りました。

午後3時、予定より2時間早く葛

尾村民約300名が避難所に到着。ここで、スクリーニングの受診確認を行ったが、実施していないとのこと…。

原則受け入れは受診後との本部見解だったが避難者の状況を見ると会津若松市まで向かうことは無理と判断しすぐに受け入れを開始しました。そして、その翌日のスクリーニングから葛尾村民各位の避難所生活がはじまっていくことになりました。

今回、これだけの大きな震災の中、受け入れをするための避難所設営がスムーズに半日で完了できたことは、川西地区区長会・公民館・まちづくり運営協議会さらに第5(第6)分団の全面的協力と役場職員の素早い行動、葛尾村職員の的確な行動があったからこそ、なしたものだと思っています。

今回、避難所設営責任者として大変感謝しています。

まだ、福島県は先が見えない状況であり、当町も農作物も含め放射能問題など今後取り組む課題が多く、その道は長い道のりだと思っています。

大震災から1年経過して、改めて思うことは常に危機管理意識を持ちながら、事有る時すぐに対応できるように日々の職務を遂行していきたいと思えます。

「人の駅・川の駅・道の駅」拠点整備事業

湯川村と共同で進めている「人の駅・川の駅・道の駅」拠点整備事業について、3回に渡ってお知らせします。《第3回》

■はじめに

今回はこれまでの道の駅に関する検討経過、来年度のスケジュール等についてお知らせします。

■これまでの検討経過

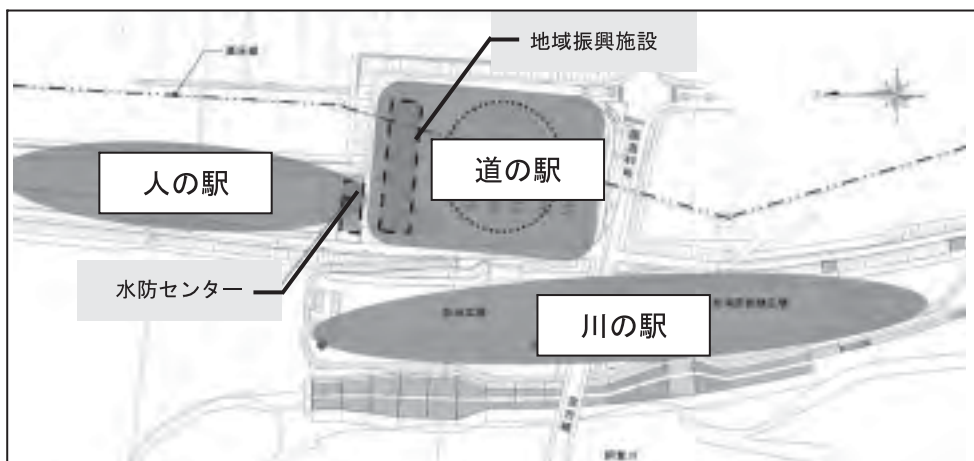
会津坂下町・湯川村では、道の駅運営検討部会を設置し、委員の方と一緒に道の駅について、検討を行ってきました。

○道の駅の全敷地面積は約 20,000 m² (地域振興施設、情報提供施設・トイレ、駐車場、緑地を含む)。

○地域振興施設は、木造二階建て、約 1,200 m²を予定。

○地域振興施設は、道路利用者からの視認性を高めるため、国道 49 号と平行に配置。

○人の駅、川の駅、道の駅の3駅が一体となって、地域振興、交流促進が図れるよう、地域振興施設と水防センターを近接して配置する。



全体面積	約 58,000 m ²
人の駅	約 13,000 m ²
川の駅	約 25,000 m ²
道の駅	約 20,000 m ²

【3駅の配置図】

■平成 24 年度の検討体制について

平成 24 年度は、道の駅運営検討部会を再編し、「農産物販売部会 (仮称)」、「地域特産品開発販売部会 (仮称)」、「運営研究部会 (仮称)」の 3 つの部会を設置します。

引き続き、道の駅について、3 つの部会で検討を進めていきます。

【平成 24 年度 道の駅検討体制】

①農産物販売部会 (仮称)

道の駅の農産物直売所での販売体制づくり等を行う。

<実施内容>

- ・通年を通じた農産物の出荷、提供状況の試算
- ・テストケースでの販売活動の実施
- ・運営計画、運営組織、運営規約等についての検討
- ・運営組織づくり

②地域特産品開発販売部会 (仮称)

道の駅の直売所での販売体制づくり、特産品開発等を行う。

<実施内容>

- ・運営組織形態の検討、運営組織づくり検討
- ・商品構成検討、消費者ニーズの把握、商品開発
- ・2 町村内での商品提供試算、生産体制把握
- ・運営組織づくり

③運営研究部会 (仮称)

道の駅の運営計画、運営組織の立上げ等を行う。

<実施内容>

- ・テナント誘致の検討
- ・事業計画の精度の向上
- ・運営計画の策定
- ・運営組織立上げ、設置
- ・テナント誘致のための営業活動のサポート

■会津坂下町・湯川村「6次産業化」講習会を開催しました

会津坂下町・湯川村では、魅力ある道の駅にしていくため、山際食彩工房 代表 山際 博美さんを講師にお迎えし、3回にわたり「6次産業化」講習会を実施しました。

第1回講習会(2/17)では、「農産物の加工は素材を活かすことから始まる」をテーマに、山際さんに講演頂き、農業、農産加工業者、飲食店経営者ら約50人が参加しました。



第1回講習会風景

山際さんが自ら携わった農産加工品を紹介しながら、6次産業化の進め方や、商品開発のポイントについて、わかりやすく講演頂きました。



第2回講習会風景

第2回講習会(2/27)では、「地元食材で加工品を作ってみよう!!」をテーマに、地元産の野菜を使った料理講習会を行いました。

農業、農産加工業者ら23人が参加し、山際さんが考案したレシピで、地元産野菜の加工を学び、各自調理を行いました。

参加者は、地元野菜をふんだんに使った料理に、したづつみを打ち、今後の特産品開発に意欲をみせていました。

【第2回講習会メニュー】

- ・菊芋とほど芋のピーナッツあえ(菊芋、ほど芋、ピーナッツ)・ピーナッツ豆腐(ピーナッツ)
- ・かわり餃子(米粉)・じゃが芋とブロッコリーのコロッケ(じゃが芋、ブロッコリー)

※()内、地元産野菜

第3回講習会(3/26)では、「1歩進んだ商品を目指して」をテーマに、実際に開発に取り組んでいる加工品のプレゼンを行い、参加者同士で講評や、加工品の二次開発について検討を行いました。これらは、今後の商品開発に生かされ、会津坂下町と湯川村の新たな特産品が生み出されると思われまます。

平成24年度についても、「6次産業化」講習会を実施する予定です。広報等で、お知らせしますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

■消防訓練広場整備工事について

現在、「川の駅」内にある消防訓練広場の整備を行っています。

消防訓練広場については、消防団の訓練施設として整備するもので、平常時には町内外の人たちが、各種スポーツイベントなど多目的に活用できます。

■平成24年度のスケジュール

「人の駅・川の駅・道の駅」の施設整備については、平成24年度は下記の事業を実施します。

施設整備に関する事業	管理運営に関する事業
(道の駅) 造成工事	(道の駅) 運営検討部会の立ち上げ
(道の駅) 地域振興施設等設計業務委託 プロポーザル	(道の駅) 農産物販売組織の育成
(道の駅) 地域振興施設建築設計	(道の駅) 特産品の開発・販売組織の育成
(人の駅) 水防センター建築設計	(道の駅) 他競合施設調査(運営形態等)

■特徴ある「人の駅・川の駅・道の駅」に

「人の駅・川の駅・道の駅」拠点整備事業についてのお問い合わせ・ご意見については、下記の問い合わせ先(政策企画班)までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先 政策企画班 TEL 84-1504】